

平成22年度 第1回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 川越をこんなまちにしたい ～



日時：平成22年5月18日（火）

午後7時00分～8時30分

場所：市役所本庁舎7階第1委員会室

参加者

川越商工会議所青年部、川越青年会議所、川越商業経営者研究会の皆さん 21名

出席者

市長、石川副市長、秘書広報監、市民部長、産業観光部長、産業観光部副部長

意見数

分類	件数	内容	頁
保健・医療・福祉	3	子育て支援	6
		子育て支援	10
		子ども手当	11
教育・文化・スポーツ	4	旧古谷東小学校跡地の活用	2
		教育センター	2
		小中学校の耐震化	3
		親の教育	8
都市基盤・生活基盤	1	一番街の交通対策	4
産業・観光	14	花火大会の中止	3
		産業観光館の愛称	5
		商店街の加入促進	7
		後継者育成のための行政との連携	11
		市のホームページへの仮想商店街の設置	13
		観光客の動線	16
		商工業と観光の連携	16
		観光客の市外から川越への動線	17
		外国人観光客の誘致	17
		フィルムコミッション	17
		海外を見据えた川越ブランドの発信	18
		商工業の技術と観光のタイアップ	18
観光マップ	18		
公園朝市（農産物直売会）	19		
地域社会と市民生活	2	通学路の安全対策	5
		市民が担える市民サービス	13
計	24		

数学の中では台形とか今までにやっていたことがまた復活するとか、あるいは新しいジャンルとか、その教え方であるとか、あるいはトピック的に、例えば児童虐待が起きたときにどう対応したらいいのかとか、評価の内容もありますし、生徒指導のこともありますし、そういったいろいろな内容について、特に夏休みとか春休みとか、いわゆるお子さんが自宅にいるような時間を中心にして研修をしますし、あとは新規採用の段階で新採用の先生が勉強したり、中くらいの段階の先生、管理担当者のための研修、そんな階層別の研修をやったりして、可能な限り生徒や児童に影響のない範囲で研修をさせていただいております。

《小中学校の耐震化》

意見 学校関係で、よく夏休みとかに川越の小学校とか中学校で耐震化の改修工事をしているのを見たりするのですが、それがどの程度まで終わっていて、まだ残っている学校がどれくらいあるかよくわからないので、もしその辺がわかれば教えていただきたい。

川合市長 平成 22 年度は、21 校の小中学校で体育館を中心に耐震化工事をして、今年度末には、私の記憶では耐震化率は 7 割ぐらいになります。平成 23 年度、そして 24 年度と、ことしも入れて 3 年間かけて 100% にしようという考えでやっています。

石川副市長 平成 27 年度までに終わらそうという計画だったのですが、川合市長が就任して、児童生徒の安全のためには早くやったほうがいいという指示で、24 年度には全部終わるといような計画に変更させていただきました。

意見 現状では I_s 値という基準値がありまして、いわゆる危険度の高い数値を超えるような、至急耐震補強が必要な校舎は今ほとんどないという認識でよろしいわけですね。

川合市長 I_s 値が 0.3 未満のものを今ずっと進めているところです。

《花火大会の中止》

意見 毎年やっている花火大会をことは中止して、その部分を別のところに充てられているという話を聞いていますが、それに関して具体的にお話をお聞きしたい。

川合市長 花火の予算として年間 2,000 万円ぐらいだったものを、財政も厳しい折から隔年で、1 年おきにさせてもらおうということで、その 2,000 万円についてはほかの諸々に振り分けてしまったということで、特に観光に使ったとか、そういうわけではないんです。

確かに景気の悪いときこそ花火を上げて、景気づけたほうがいいという御意見があ

ることはよく承知しているのですが、今年度はお金のこともあるし、また景気がよくなったら毎年やってもいいかなという考えです。

《一番街の交通対策》

意見 一番街で、一方通行とかいろいろやって、そのあと1回広報に出たぐらいで、それ以来何の情報もないのですが、市として方向性とかは考えていますか。

川合市長 今のところ、昨年の方通行にした事実を踏まえて、一方通行にするのがいいのか、歩行者天国にしたほうがいいのかとか、幾つか考えられる方策について皆さんの意見をアンケートという形でいただいたのですが、一つは、返ってきたアンケートが必ずしも数が多くなかったということもあります。それから意見が完全に割れてしまっているという現状です。

鈴木産業観光部長 5月3日から3日間歩行者天国をやりましてアンケートを実施し、まだ集計が終わっていないのですが、地元の方は生活している道路でもあるので、歩行者天国にされてしまうと生活とか仕事に支障が出てくるという話もあります。一方、観光客の方から見れば安全といいますか、車が通らなくなりますので、人もたくさん出ますし、にぎわいも少し増します。そういった意味では観光客としては歩行者天国に賛成するほうがちょっと多いのですが、地元の方にとってはいろいろ支障があるというような意見は聞いています。

意見 実際に商売をしながら見ていて、いろんな意見を私も聞いていたので、答えは出ないと思うんですけども、何か方針を決めてそれに向かっていかないと、このままずるずると行っただけだと思うので、例えば一番街とか、そういった商店街を中心にタウンミーティングをもうちょっと開いていただいて、そこでいろいろ意見をいただいて、できたら早めにこの交通問題は解決していただきたいと思います。

川合市長 大分前から議論していることだから、そろそろ一定の方向性を出さなければいけない時期に来ているというふうには考えています。

鈴木産業観光部長 昨年、ことしと歩行者天国をやってみたので、来年度以降をどうするかはこれから決めるのですが、まだ方針は決まっていません。

川合市長 考えられる一つの方法として、一日の一定の時間だけ一方通行にするというのもありかなと思っています。これは警察がすごくいやがる方法ですが、一番地元の人にとっても迷惑度も少ないし、観光客がいっぱい来ている時間帯だけ一方通行にするようなことも考えてみてもいいのかなとは思っているのですが、こういうふうにしたらどうかとか、ああいうふうにしたらどうかという皆さんのお知恵があったら、ぜひどしどし寄せていただきたいと思います。

《産業観光館の愛称》

意見 新富町商店街に旧鏡山跡地がありまして、産業観光館ということで、ことしの3月まで暫定活用されていまして、4月にクローズして、ことしの10月1日にオープンということですが、この名称、ネーミングはどこが決めるのですか、もう決まったのですか。

鈴木産業観光部長 中心市街地活性化推進室で募集して、たくさん名前は出ているのですが、その中で選定中です。

意見 いつごろになりますか。

鈴木産業観光部長 10月オープンですから、6月か7月ぐらいには検討して提示したいと思います。

意見 いつまでも地元では、鏡山跡地としか言いようがなく、まちを歩いても産業観光館という言い方はだれもしない。

鈴木産業観光部長 正式名称は産業観光館という名前になっていますけれども、皆さんで呼びいただく愛称としては産業観光館では長いので、愛称はつけたいと思います。

意見 愛称が1日も早く決まることを望んでいます。

《通学路の安全対策》

意見 今年度からだと思いますが、子どもたちの通学路の危険箇所の補修というか直す予算がおりるようになったという話で、多分危険箇所はいっぱいあると思いますので、どういう課に言えばいいのか、例えば校長先生から意見を吸い上げるのか、そういうことがもしわかればと。それと直すにもいろいろ順番があると思いますので、それは危険の度合になるのかとか、そういうことがわかれば教えていただきたいと思います。

尾崎市民部長 市民部が安全安心生活課を所管してございまして、市長から通学路の安全について特に指示がございまして予算もついております。今進めていますのは、ヒヤリマップですとかいろいろなものを、通学路や学校ごとにつくっております。そのマップの作成と、教育委員会と協議しまして実効性があるもの、すぐにできるようなものをピックアップしております。今年度から少しでも形になるような通学路の安全対策を進めていきたいと思います。

具体的には、教育委員会と安全安心生活課でチームをつくりまして、学校のほうにストックされている、この箇所を直したらいいだろうなというような部分ですとか、安全安心生活課のほうに寄せられているいろいろな情報をミックスしまして、今年度

だけではありませんので、時間がかかるものとすぐできるものに分けまして、少しでも前に進むように今指示を出して、教育委員会と一緒に進めております。秋口から何か具体的なものができるかと思っておりますので、もう少しお待ちいただければと思います。

《子育て支援》

意見 小学校就学前の、生まれたての赤ちゃんから幼稚園に入るまでの子どもたちに対して、川越市ではどういうふうな子育て環境をつくっていかうとお考えなのか。

川合市長 一つは、働くお母さんのための施策として、待機児童をなるべく減らしていきたいという考え方を持って、去年、民間の施設が四つ手を挙げてくれたので、今年度中にその民間の保育園が四つできる予定です。したがって、来年の4月1日現在には待機児童が極めて少なくなるだろうという見通しで、そういうようなことをやっています。

それから、幼稚園についても、本来の幼稚園の児童相手の仕事だけではなくて、小さい子どもも預かってもらうようなこともやっていますし、そういうことに対する補助も出しております。もちろん本来の幼稚園の業務に対しても補助金を出すという形でやっているわけです。

川越市で若干おくられていると言わざるを得ないのは、児童館の数が少ないということです。確かにほかの自治体を見ると2けた以上の児童館があるようなところが結構あるのですが、川越はまだ3つしかありません。今、市民センターをつくっていかうという構想がありまして、その市民センターの中に、児童館とは言わないまでも、子どもを連れてきてそこで遊ばせたりできるようなスペースを必ず組み込んでいかうと、ある意味では児童館の代替施設として使ってもらおうというようなことを考えています。

もう一つ、川越市には公園、児童遊園が少ないということを言われていますが、それもなかなか予算との兼ね合いで、急に解消するのは難しい状況ではあります。特に旭町とかその周辺には公園がないというふうに言われておりまして、なるべく早く何とかしなければと考えています。

意見 私はもともと児童館で働くために勉強していたのですが、若いお母さんたちと話す機会が非常に多いのですが、皆さんがほしいのは大きな公園じゃなくて、きちんとした箱物の児童館ではなくて、ベビーカーを押してちょっと立ち寄れる小さなスペースがまちの所々にあることで、それが一番子育てをするのに必要な環境なんです

ね。そういうのはなかなか男性の目線だと気がつかないかもしれないので、ぜひ子育て中のお母さんたちの声をたくさん聞いてあげて、そういう子育て環境をつくってほしい。子どもってすぐ大きくなっちゃいますから、生まれてからの2年間の間にどういう環境で子育てをしたかということが、その子の人生にとって大きな影響を及ぼしますから、川越はその点、大人にとってはすごく幸せなまちで、私たちは幸せなんですけれども、子育て中のママたちは本当にストレスを抱えていてかわいそうなので、ぜひお金をかけなくてもできることに目を向けていただいて、1日でも早く少しづつでもお願いします。

川合市長 児童遊園のようなものが身近にほしいということですね。

意見 そうです。本当に小さなスペース、10坪ぐらいのものが所々につくられていたらいいなと。そういうのがあるまちってたくさんあるのですが、川越にはない。ベンチと木陰とちょっとした砂場があれば、そこでママたちのコミュニティができるんですね。児童館は敷居が高かったりするので、本当に小さいところをたくさんつくっていただいて、そういうマップみたいなものをつくってあげたらいいなと思います。

《商店街の加入促進》

意見 今、うちの商店街は150軒の組合員で、300店以上のお店の数があります。ということは組織率が約50%なんです。なかなか入ってくれない。

街路灯をつくることできょうも話をするんですが、街路灯をつくっているのは、もちろん補助もいただくのですが、我々が全部企画をしてつくっているわけです。街路灯は、商店街の役員が仕事の終わったこのぐらいの時間から会議をして、つくっているのですが、組合に入っていないお店は、言葉は悪いですがただ乗りみたいなことで、電気料金も、もちろん川越市から補助金をいただいているんですが、我々組合員が電気料金も払っている。かといって税金じゃないですから強制はできないわけですが、市としての何かインセンティブがあるといいなと。

世田谷では条例化をしているようですが、我々自体もまだまだ勉強しなくてはならないこともたくさんあると思いますが、川越市としても行政として、未加盟店に対して加入なり加盟していただくバックアップなりがあればありがたい、という話をここ何年かいろいろなところで言わせていただいています。実はきのうの総会もそれが一番の話題になりました。

鈴木産業観光部長 市としては、商店街に加入しないところに加入促進させるための施策というのは特に打っておりませんが、お話をいただきましたので考えてみたいと思います。

意見 商店街に集金に行くと、どうせ役員で飲んじゃうんじゃないかと思うお店もあるわけですが、せめて法人化しているところぐらいは何かあったらいいなと思っています。

山田産業観光部副部長 今、法人化というのが出たのですが、法人化されますと商店街のほうにも国の補助金ですとか県の補助金、そういうものが受けやすくなります。確かに皆さんが商店街に加入すればそれだけ商店街に会費も入るし、公平な形になると思うんですね。市の補助も全部公平に使われますから、やはりその辺で何とかうまくいの方策が見つければいいのですが、今のところ、加入しなければ市として補助金を出さないとかといった形がないものですから、これから少し研究させていただきたいと思います。

意見 きょうは、そういう現状があるということだけでもわかっていただきたいと思っています。

《親の教育》

意見 昨今、日本全体で問題となっているのが少子化ということで、先ほどの、公園をふやして子どもを育てやすい環境を整えるということも大切だと思うんですが、私どもの青年会議所としては、本年度、青少年委員会のほうではもっと長いスパンで考えまして、今の子どもたちに、命の尊さということを知ってもらって、なおかつこの川越市に住み続けてもらいたいと。

教育の中身ということだとすると、我々が考えているのは、子どもたちに対する親の教育ということも大切なのではないかということで、そういったところに関して市立の小学校にも積極的に教育を進めていただければと思っています。

石川副市長 命の大切さであるとか子育ての大切さというようなこと、生きるということの大切さ、そういったことについては学校教育の中ではいわゆる特別科、皆さん特活という言葉を使っていますが、特活という授業とそれから道徳の授業、こういったものを中心に、実際の体験活動等々をやらせていまして、その中で、今は小学校のうちから、はっきり言えば、親が十分子どもに対してしつけであるとか生きる力とかを体験をさせられない家庭が多いものですから、家庭の教育力が下がっているので、学校ではあの手この手でやっています。

例えば子育ての関係であれば、実際に中学生になると赤ちゃんを抱いてミルクを飲ませるとかまでもやらせる。高校でもそれをやらせる。そういうことをやることによって本当の子育ての喜びというか実体験を、自分はこんなに大切にされて育ってきたんだとか、学ぶ機会を何度もやっていますので、我々が育ったころよりもはるかに時

間を割いてやってはいます。

そういうものを、ある意味では、計画的に段階的に体験させることによって、心の教育を高めていくということはあの手この手でやっているのですが、なかなか十分な状況にはまだまだ至っていないというのが正直なところかと思えます。

意見 そうすると、子どもたちに対してというよりも、家庭教育のレベルを上げていく対策が必要になっていくということでしょうか。

石川副市長 そうですね。親の教育というか、親学ということも今言われていて、いわゆる3歳児健診とか1歳半の健診のときの機会をとらえて、お集まりのお母さん方に、親としてのあり方みたいなものを感じていただくようなお話であるとかビデオを見てもらったりして、親になるための教育もやっております。

意見 今年度はぜひお母さん、お父さん方を集めて一度親学を行いたいと思っているんですね。そのときはいろいろお知恵を拝借させていただきたいと思えますので、よろしくをお願いします。

意見 実際、親学の何かツールみたいなものを御用意されているのですか。

石川副市長 県全体で親学のテキストなどもできていますので、言っていたければ教育委員会を通じて提供することはできるかと思えます。あとはそれを上手に教えられるような先生がいらっしゃれば、非常にインパクトのあるお話がいただけるかと思えます。

意見 例えば私の子どもはもう25歳になりますが、私が親になりたてのときは、東京都小金井市に住んでいましたが、そこは非常に児童館がたくさんあって、小学校区に1つの児童館があった。建物は古くなってぼろぼろだったりとか、例えばどこかの跡地だったり、小学校の跡地とかいろいろなんです。

親になる教育というのは、1回や2回話を聞いただけでは母性とか父性は育たない。児童館に遊びに行くと、そこに専門の社会教育主事がいて、毎回毎回話しかけてくれて、それでだんだんみんなが育っていく。そのシステムが川越市は非常に少ない。お母さんたちは自分は悪い親だみたいな、子どもをかわいがりたいんだけど、どうやってかわいがって、どうやってお母さんたちとつながって、どうやって自分が母性を育てていったいいかという手助けが非常に少ないので、かわいそうな状況にあるんですよね、というのをぜひ理解していただければと思います。

川合市長 県の教育委員長は、親に一日保育士さん体験をさせなさいというようなことを言っています。2カ月ぐらい前にお会いして、その話を聞かせていただきましたが、男親でも女親でも自分の子どもを預けている保育園に行って、一日子どもと一緒に

に過ごす保育士さんと同じようなことをやる、そういう経験を持たせることが親を育てることになると、だからぜひ川越市でもそういうのをやりませんかということをお願いしていたんだけど、その問題についてはそのままになってしまって、川越でそれを取り入れるかどうかはまだきちんと決めていないんですけれども、そういうやり方もありそうですね。

《子育て支援》

意見 そうですね。たくさんいろんな場面を準備してあげて、選べるようにしてあげたほうがいいと思いますね。日常に市の用意してくれたところに行けば、自分のストレスとかお母さんの身になりたてのさびしさを解消できると、安心して川越で子育てができる。川越で生まれた人たちは川越で子育てをしているんですけれども、外部から来た人たちって、家を買ってまたどこかに行っちゃうんです、私の知っている限りだと。やっぱり子育て環境がいいところに行く、それは非常に悲しい。ずっと住んでいるとなかなかそういうことに気がつかないんですね。

20年ほど前に川越市の公園課の課長さんと一緒に公園を見に行こうと話していたことがあって、そのとき世田谷区にプレーパークという公園があるんですけれども、世田谷区と市民とが連合でやっていて、火を使ってもいいし、木を切ってもいいし、穴を掘ってもいいし、プレーリーダーが在駐していて、子育てについて伝授してくれる。あそこは非常にいいので、もしよかったら、20年前の話なんですけど、また見学に行っていたらと思います。

意見 それについては東京国際大学の遠藤先生が専門ですね。

石川副市長 子育て中のお母さん方は不安で、例えば市で言えば子育て支援課にもそういった職員がおりますし、総合保健センターのほうには健康づくり支援課に保健師がたくさんいて、母子の保健の指導なんかもしてくれる。門をたたけば聞けるようなセクションは市役所としても用意されていますが、恐らく今のお話は、むしろそういうことよりもお母さん同士が気軽に集えて、お互いの悩みを言い合えるような場所がほしいということですね。

子育てサロンというような言い方で幾つか市でもあるのですが、それがもっとあちこちにできればいいのかなと。それが公園という場所であったり、どこかのお部屋の中であったりということだと思ってしまうので。いずれにしても、子育てについては非常に大切なことだと思いますので、市としては子育て支援計画というのを実は去年つくったばかりで、その中にいろんなことを盛り込んではいらっしゃるんですけれども、大切な点かと思ってしまうので、今後努力させていただければと思います。

《子ども手当》

意見 今、子ども手当が支給されると思いますが、いろいろなニュース等では現物支給する市町村もあつたりとかいろんな話を聞きますが、川越市はそのまま各個人の口座に振り込むのかもしれないのですが、そのほかに、ほかの市町村では、給食費の未納分をそこから落としてしまうというやり方をする市町村もあるかと思います。川越市の給食センターに去年見学に行きまして、かなり未納が多くて困っているという話を聞いているので、川越市として具体的な話が進んでいたらお願いしたいと思います。

川合市長 基本的には国が決めることだと思います。今、民主党政権は、給食費とか滞納の保育費などに充てて良いとするかどうか、その辺のところはまだ決めておりません。当初の話ではそういうのは一切しないで、滞納していようがしていまいが、どんなに所得があろうがあるまいが、一律にトータルで月2万6,000円出す、当面ことは半額で1万3,000円とかという話でしたが、いろいろ意見が出されて、やっぱり滞納している人にも無条件で与えるのはおかしいじゃないかと、滞納分に充てなければおかしいという意見も出てきたりしているから、まだ流動的なんです。国が一律に配りなさいと言ったときに、市が勝手に考えて滞納分に充てて良いというふうにはできないと思います。

しかし、今の流れでいくと、2万6,000円というのはどうも実現しそうもないですよ。1万3,000円はとりあえず出して置いて、残りの分は保育園の整備であるとか、ほかの方法でお金を出しますよという方向に今動きつつあるようです。

さらに言えば、月1人1万3,000円というのがいつまで続けられるかだって全然見えない。今の状況だったら、すぐ財源がなくなってしまって、やっぱりやめたとかになる可能性だってないとは言えないですね。それに関しては流動的というか、国の判断待ちという状況です。

意見 例えば国が、市町村でうまく使いなさいみたいなことを言った場合は、またそのときいろいろな使い方を考えていくということですか。

川合市長 その滞納分に充ててもいいということであれば、それはもちろんそういうことはします。

《後継者育成のための行政との連携》

意見 後継者問題ですが、市として後継者に対する援助ですとか助成、もしくは研修等の場を設けるような何かいい考えとかがあるのか教えていただきたい。というのは、今いろいろな団体がありまして、私も今、川越商工会議所の青年部に所属させて

いただいているんですけども、この会でたくさん勉強することがあるんですけども、どうしても昼間の時間帯というのは仕事に追われてしまって夜の時間帯になってしまうことがあります。その夜の短い時間でも充実した勉強の場がありますが、その中ででも何を勉強しようかというのが一番の議題になることが多いんです。そのところで、市のほうでこういう資料を提供できるよとか、場所を提供できるよといったことがあれば教えていただきたいのですが。

山田産業観光部副部長 制度は特に今ないので、商工会議所さんのほうは経営改善の普及とか中小企業の専門的な支援とか、結構そういういろんなメニューがありますので、そういう中で一緒にやっていくような形でしたらとれるかなとは思いますが、市が独自に始めるとなると意外と難しい面もあるなど、ノウハウが余りないものですから。

鈴木産業観光部長 農業のほうは結構あるのですが、商業関係とかはなかなか後継者問題というのは施策としてはないですね。

意見 後継者がいないから大変というのではなくて、我々後継者としてやっている中で、やはり景気が余りよくないがために経営自体がすごく難しいことが多いんです。勉強すればということになるんですけども、学生時代、自分も余り勉強してこなかったほうなので、今になって後悔しているのですが、何か勉強できる場を提供していただけたらなというのがあるんですけど。

山田産業観光部副部長 就労支援とかになりますと、結構スキルアップとかそういうものは出てきますが、意外と経営者に対するものというのは、市としては手薄な部分があります。専門的なアドバイスができる方とか、そういう方の派遣とかになってくるのかなと思いますが、その辺も含めて会議所さんのほうが持っているものですから、その辺と連携をとって、いい方法があれば考えていきたいと思います。

石川副市長 商工業の支援というのは自治体の規模に結構左右されてしまいます。今の状況を見ると、都道府県単位での労働であるとか商工業支援策というのはかなりやっておりますが、市町村単位になると、なかなかそこまで追いついていないというところが正直あります。県のほうに言っていただければ、例えばさいたま新都心のところでこういう講座をやっていますよとか提供できると思います。

川越市内で経営者のためにこういう講座でこういうことをやってほしいということであれば、商工会議所さんとか商連さん、あるいは青年部に入って、ある程度みんなのコンセンサスが得られるような案をつくっていただいて、そこに市のお金と例えば商工会議所のお金をドッキングさせて運営するというようなことになれば、出しゃ

すいんですね。だれだれさんの個人的な勉強になるとか個人的な企業支援というのではなくて、川越市全体の商工業の振興のために貴重な市税を投入するとなれば理屈は立ちますので、そういう土台、流れができてくれば出せない話ではないとは思いますが、実態は都道府県単位が多いというのを承知しておいていただきたいと思います。

《市民が担える市民サービス》

意見 川越市さんには非常に失礼だと思いますが、私たちが担えるような市民サービスのようなものができたらいいなと考えているんですね。できるかどうかは別として、そういった提案を含めてお話し合いなどができればいいなと思うんですけれども。具体的に求めるようなものなどがあるようでしたら、御提案をいただきたいなというふうに考えておりますので、またこういった機会を利用しながらと思うんですけれども、これは私の希望としてですが、よろしく願いいたします。

植松秘書広報監 今回久しぶりに16日のイベントの関係でJCの代表の人たちと交流させていただきました。私も市に入って三十何年おりますが、最初のころから青年会議所の皆さんとは交流させていただいたんです。たしか青年会議所には「友情」、「奉仕」、「修練」という三つの信条がありますよね。

ただ、最近見ていると、1年間のイベントをやることにエネルギーを費やして疲れ果ててしまって、その先の展望が開けないんじゃないかなという印象があります。皆さんたちは5年たつと、このまちのリーダーになるわけですから、5年後のまちを想定して、こんなまちにしたいということ逆を語っていただく、提言していただく時期に来ているんじゃないかというふうに思うんです。余計な話ですが、そんなことが気になりましたので、お願いしたいと思います。

《市のホームページへの仮想商店街の設置》

意見 要望というか希望でちょっとお話をさせていただきますと、インターネットといわゆる行政とのかかわりというんでしょうか、最近市のホームページは大分見やすく更新がなされて、大分アクセスもふえています。我々事業主からもうちょっと言わせていただきますと、できれば仮想商店街みたいなものをウェブ上につくっていただきたい、川越市のホームページのトップに。いわゆる楽天のように売り上げの管理やそういったことまでする必要はないんです。あくまでもサイトマップ的なもので結構なんです。いわゆる川越に所属する事業者さんはどんな方でも登録が自由にできるという、その土壌をつくっていただきたい。それによって、先ほどお話があった商店街の問題、これも商店街に入っていらっしゃる方は補助金もいただければ、何でもありますからうらやましい限りですが、商店街に属さない方々はやはりどうしていくの

かということになる。

それと、商店街的にはそぐわないような業者さんっていらっしやいますよね。例えば建築業だとか保険業だとか、普通商店街には入っていらっしやらない自動車の修理工場さんとか、こういった方々とかどんな業種の方でもウェブ上の仮想商店街であれば登録は可能ですし、どんな方でもアクセスができる。これをぜひ川越市が主体となっていていただくと非常に公平感も出てくるし、時代に沿ってくるのかなという気がするんですが、いかがでしょうか。

川合市長 今言われたことは、実際の例えば何々商店という商店を、市のホームページのどこかに載せるということですか。

意見 市のホームページのトップに仮想商店街入り口というタブをつくっていただければいいんですね。

川合市長 そういう仮想商店街というのをつくって、市のホームページからすぐリンクして、そっちに行けますよというシステムでも構わないのですか。

意見 構いません。それぞれホームページを持っていらっしやる事業者さんがいらっしやいますから、そこへのリンクを張ることも当然OKですし、それ以前に基本的な登録フォームだけ記入いただければ、会社のお名前だとか事務所の紹介、あるいはお勧めのものとかを簡単に制限内で載せられる一つの土壌というか、フォームをつくっていただきたいということです。

川合市長 そうであれば、その仮想商店街は行政がつくるのではなくて、商工会議所なり青年会議所なりあるいは商店にしる、民間の人につくってもらった方が、行政でそういうのをつくるというのは、ちょっと行政の仕事にそぐわないような感じがするのですが、どうでしょうか。

意見 商工会議所が主体でもいいのですが、必ずしも100%加盟されていらっしやるというわけでもないの。

山田産業観光部副部長 企業の紹介コーナーみたいなもので、それで企業さんのほうはIDか何かで管理されていて、それで書き込みができてというふうな感じですよ。ただ、サーバーはどこかで管理していかなければなりませんね。

意見 そうですね。その問題が出てきますね。相当量になりますので、その辺は例えばサーバーの管理費は行政の負担にさせていただくとか。

山田産業観光部副部長 その辺もちょっと研究したことがあります。

企業に登録してもらって、その企業がどういう業種でどういうものを行っているかとか、そのこのところのホームページなどが見られたり、どこでも見られますから、見

たときに取引とかそういうものに乗ってくるようなことができる。同じようなものかわかりませんが、そんなイメージなのかなと思います。そういうことをやっているような自治体もあります。あとはどのくらい登録してくるかですね。

意見 商工会議所でアクセスする方よりも川越市でアクセスする方のほうがずっと多いですから、何十倍も何百倍も川越市のホームページのほうが広い。そこに何らかの形で事業者さんの紹介のサイトマップがあるといいわけです。

山田産業観光部副部長 川越市も十何年前に紙ベースでそういうものを一回つくったと思います。企業の紹介欄で、住所とか業種とかどういうものをつくっているかとか、どういうものの取引が多いとか、いろいろ出てくるとは思います。ただ、紙ですと1年ごとの更新なんてできないですから、一回つくると終わっていつてしまうというようなことで、今言ったとおりそういうものでやっていったほうがというのはあります。

川合市長 川越市内にある商店あるいは工場、あるいはサービス業のすべてを網羅して載せるということになると、かなり大変ですね。

意見 商工会議所でいえば5,000事業所、プラスアルファで7,000ぐらいみておく必要がありますね。

川合市長 管理とか更新とかが常に必要になってくるわけですね。

意見 更新はもちろん各事業所です。

川合市長 事業所でやるんですか。

意見 はい。プラットフォーム、土壌だけでいいんです。

意見 そうすると川越市のオーソライズというか、ちょっとした保証とまではいかないですが、権威づけを願って、どこまで川越市さんが調査ですか、例えば我々は2年に1回業者登録をしています。あのくらいのレベルまで上げて登録をするのか、簡単に住所と名前と電話番号ぐらいでできちゃうとか、それは結構難しいと思う。

意見 責任分界点ということでしたら、第三者機関とか何らかの形をつくるとかいろんなやり方があるかだと思います。せっかくあそこまでアクセス数がふえた川越市のホームページですから、それをまた我々の事業者にリンクいたすようなすべをお考えいただけるとありがたいと思います。

川合市長 現実にそういうことをやっている自治体があるというのであれば、研究してみたいと思います。

意見 ホームページの下の方にバーナー広告を。この間、ある業者さんがやりたいと私に相談してきたので、ぜひ入るように言っておきました。

《観光客の動線》

意見 「つばさ」以来、一番街が観光地として観光客が非常に多くなってきていると思いますが、一番街だけではなくて、それ以外のところにも観光客を誘致するためのこれから先の努力が必要になってくるかと思うんです。本川越駅、川越駅からの動線、人の流れというのはかなりできているんですが、あぐれっしゅ川越あたりからバスが出て、市役所の前を通過して多くの観光客が歩いていくのを見かけますが、一番街の中心、もしくはその郊外の展望をお聞かせ願えたらと思います。

川合市長 新しくできた直売所、あぐれっしゅ川越の駐車場は川越市が持っている駐車場も使っていていいと、そのかわり観光客の人もあそこにとめていいという話になっています。

今、一つ考えていることは、あそこから歩いてもらって一番街に行くのに、氷川神社のほうを通過して、県が整備してくれている川のふちを通過して高沢橋のほうに行くと、菓子屋横丁へという、ぐるっと回るような遊歩道みたいなものを整備したいなと考えています。

そういうようなこととか、あるいは去年かことしの初めにオープンした河越氏館跡も、何らかの形で観光客を連れて行けるような、せっかく史跡公園としてオープンしましたので活用したいと思っているのですが、まだ具体的な活用方法というか、プランは検討中です。

もちろん一番街だけでなく、喜多院がもともとの観光地だし、あそこも本川越駅から喜多院へという、その前に鏡山跡地のところを通過して喜多院のほうに向かってもらうように観光客を誘導していく、そういうようなことも頭の中では考えているのですが、そのためにこういうふうに道路を整備しようとか具体的なものがあるわけではないのですが、本川越駅から喜多院に向かう道は順次拡幅を進めておりますので、少しずつ広がっていくと思います。

《商工業と観光の連携》

意見 その中で商業とか工業の結びつきができれば歓迎されると思いますので、ぜひとも情報交換をしながらやっていただければありがたいと思います。

川合市長 観光客に多く来てもらって多くお金を落としてもらうための広報を、この間も青年会議所のイベントのときには言いましたけれども、市もいろいろ考えておりますが、皆さん方のほうでいろいろ良いアイデアがあったら出してもらいたいです。

ここのところ、私が言っているのは、伝統芸能を復活させようと、芸者さんを復活

させようということをおっしゃりますが、今の私はその程度のことしか思いつかないので、それ以外に、夕飯を食べてもらって、川越でせめて5,000円ぐらいずつ使ってもらおうとか、そういうような方策があればいいと思うんです。

《観光客の市外から川越への動線、外国人観光客の誘致》

意見 話は変わりますが、サンリオさんの重役とお話しする機会がありまして、多摩のほうにサンリオの大きな施設があって、ちょうど圏央道が八王子までつながってアクセスが非常に楽になって、午前中はサンリオでお孫さんたちと遊んでもらって、その後、おじいちゃん、おばあちゃんが川越に動線を引けないかという話をされた。そういう人の流れをつくることも重要なんだなと感じました。

都内のコンシェルジュさんとお話ししたときに、外国人が日本ばいところに行きたいというお話をされると、皆さん鎌倉を御案内するそうなんです。川越というところがあるんですよとお話をしたら、そんなところがあるんですかと驚かれた。ぜひとも観光課の人に都内にPRしに来てもらいたいという話もいただきましたので、いろいろやり方はあると思います。

川合市長 外国人観光客のいろいろ工夫はイーグルトラベルさんでやっているんじゃないかと思います。この間オープンしましたよね。観光客がそこに寄れるような、特に外国人を相手にまちの案内とか、パンフレットを配ったりできるようなところがオープンしましたが、そのときに話を聞いていたら、例えば外国人相手に氷川神社で体験神前結婚式をやったり、幸すしさんですしを握る体験をさせるとか、そういうことを考えて実行しているみたいです。そういうのを皆さんがいろいろ考えてやっていただければ、外国の人もしっぱい来てもらえるようになると思います。

今、外国人といったら中国とか韓国の人が多いから、そういう人を相手にもっと取り込めるような、向こうの人が喜ぶようなことを考えてもらえば、ますますいいのではないかと考えていますが、そういうのはやっぱり若い人のやわらかい発想でないと、私なんかには考えさせると、とんでもないことしか考えないんですよ。

《フィルムコミッション》

意見 例えば、連馨寺前の鶴川座が今「仮面ライダー」をやっていて、今のシーズン、基地になっているんです。南古谷にある東邦音楽大学が、「のだめカンタービレ」という映画とドラマの演奏の撮影場所になっていたりするんです。若い人にそういう話をするとものすごく食いつきがいいみたいですけれども、撮影隊となると、川越市さんは撮影許可が難しいのかなと思うんですね。これから少しずつやられるとは思いますが、ぜひ期待しているんです。

鈴木産業観光部長 観光課で7月か8月ごろにフィルムコミッションを立ち上げたいというふうに考えていますので、確実に決まったわけではないですが、その辺を第一にやりたいなと考えています。

《海外を見据えた川越ブランドの発信》

意見 観光客を誘致するという流れで今いろいろなお話しが出たのですが、その前に川越から世界に発信できるもの、まずそういうものを一つ見つけて、そこから徐々に観光客を誘致するというのも方法だと思います。

川合市長 例えば食べ物でも何か特産品みたいなものでもつくりたいという思いは大分前から川越市にはありますが、なかなかこれといったものが生まれてこないというか考えつかない。しかも、そういうのを全国、さらには世界に広げていくためには、すごい年数がかかるんだろうなというふうな感じがしますよね。何かいいものを思いついたらいいのだけれど。

意見 僕のおばが国際結婚しまして、おじがドイツ人ですが、小江戸ブルワリーは絶賛しています。あのビールはまた賞も取りましたし、海外でも、国際的なコンテストのようなものに何か出品していくというような手段もとっています。

川合市長 本社を川越に移さないかと言っているのですが、なかなか難しいでしょうね。

《商工業の技術と観光のタイアップ、観光マップ》

意見 川越も認知されてきまして、先ほどのホームページの話ですが、川越観光で何か外へ発信できるようなものというのを提供できればいいなと。別にバーチャルだけじゃないんですが、例えば産業博覧会がありますよね。ああいった場所でも、せっかく企業が出展されているところもありますので、そういった部分をもうちょっとこちらのほうに活用できないかなということです。せっかく企業も出展されてますし、川越にも隠れたというか、いい技術を持っている会社もたくさんあると思いますので。

石川副市長 一つのアイデアで、こういう話があります。いわゆる観光のときに川越は神社仏閣があり、お祭りがあり、伝統芸能があり、いわゆる魅力ある資源はたくさんころがっているということで観光に来る。そこで、いろんな企業さんもやっておりますが、うちの会社のこれを見てくれというような、商店でもいいですし、工業でも結構ですが、そういう職場の伝統的なものを見せていただけるとか、いわゆる優れた技術を見せていただける、そういうものを観光ルートに織り込むというのを、動き出しているところが結構多いんです。ですからそんなようなものを御提供いただければ、こちらの観光課のほうで、ただ単においしいものと神社仏閣だけじゃなくて、今

生きている皆さん方のやっていることを見せていただける、皆さん方のつくったものを買ってもらえる、というようなことにもつなげられればいいなとは思っております。

意見 いろいろな技術があると思うので、観光とリンクさせてアピールできる、そういったものもあわせて考えていったらいいのかなと思います。

意見 出かける前にインターネットとかで調べると思いますが、実際に来たら駅とかでマップを見らと思うんです。マップを頼りに観光客の人はいろいろな店を見て歩くというのが定番だと思うので、今出しているマップは商店街ごととかお店ごとに自分でやっているものが多いので、商工会議所さんでは出していないのですか。そういったマップを、できたら目的を持って統一したマップがあると助かるなと思うんです。トイレのマップもできたら載せてもらいたい。

山田産業観光部副部長 何年か前、トイレのマップも、「かわや版」とかいう名前で作らせてもらいました。幾つか「花の散歩道」ですとか、確かに言っているとおり地図ですからいろんな形のものが、出回っております。観光協会のほうもつくっていますし、観光課のほうもつくっています。ただ、それを一つにまとめるとなるとかなりの量になるので、今のところは一つのものじゃなくて、やはり川越の観光の地図でしたら「見る遊ぶ」、かなりその中にいろんな情報が入っていますので、もう一度その辺を確かめたいと思います。

意見 資料でしたら自由が丘の資料が大変よくできているので、ぜひ一度見ていただきたいと思います。自由が丘の冊子は何年も手元においてときどき見たりします。そういうふうには自由が丘ではずっと持っていたいものをつくっています。川越もデータとしては自由が丘を超えるようないろんな情報を持っているまちなので、冊子の作り方とか見せ方をぜひ参考にさせていただきたいと思います。

意見 自由が丘の商店街でつくっています。

《公園朝市（農産物直売会）》

意見 あと一つだけお願いがあります。クリアパークで野菜の直売を始めましたが、すごく評判がいいので、私は必ず行くんです。みんな来たいけど、いつやって、いつ終わるのかわからない、広報を見逃すことも多いから、すごいみんな期待しているけど、買い損ねちゃう人が多いと地域の人たちは言っているんで、そのイベントだけでも、いつやりますというような小さいものでいいので、掲示していただいたら私たちはすごく暮らしいと思うんです。

川合市長 どこに掲示するのですか、クリアパークですか。

意見 はい。

石川副市長 最初始めたときには新聞が取り上げてくれましたが、それは各紙一回限りなんですね。あとは、朝すぐ売れてしまうものとかあるので、長くまでやってられないんですね。

意見 回数をふやしていただきたいと思います。

石川副市長 担当課に検討させます。

意見 ぜひお願いします。

意見 今、サンロードと新富町には八百屋さんが一軒もないんです。昔は何軒もあったんですが、全部八百屋さんがなくなっちゃった。鏡山暫定活用の際に直売所があったんですが、それも終わりになっちゃったので、それでクリアパークになったんです。連雀町のあるお店が一回出していましたけれども、それに似たような、きょうの新聞にも出ていましたが、本当に八百屋さんがないので、川越市で野菜を売っていたのが一巡したんで結構なことだと思います。

川合市長 農政課が関与しているとは思いますが、実際に出しているのは農協あるいは個々の農家ですか。

意見 みんなトラックで来て、それぞれが販売してます。

川合市長 できる限り、宣伝広報に努めるようにします。